

令和 8 年度 新潟県農業大学校評価表

重点目標	1 アドミッションポリシーを備えた入校者の確保 3 課題解決力、創造力の育成	2 仕事力、人間力の育成 4 進路指導の強化と就農率向上
------	--	--

番号	重点目標	現状と課題	評価項目及び評価指標	具体的方策（令和7年度の取組）	実績（令和7年度の成果） と要因	達成度	外部評価委員会の評価 及びコメント	次年度の課題と改善策											
1	アドミッションポリシーを備えた入校者の確保	【現状】 ○ 志願者の推移 過去10年間の本校 志願者は令和3年度入校に向けた志願者84名が最多で、令和7年度入校に向けた志願者52名が最少。 ○ 定員充足率の推移 過去10年間の本校の定員充足率は最高が令和4年度の95%（76名）で、最低が令和7年度の51%（41名）。 ○ 入校志願者に対し、令和4年度（5年度学生募集）からアドミッションポリシーなど本校の教育方針を明確に提示するなど魅力向上に取り組中。 【活動の実績】 ○ 学校訪問 令和6年度に41校（県外3校含）を訪問し、生徒指導担当にアドミッションポリシーの周知、募集活動を実施 ○ 進路相談会への参加 進路情報誌の発行、相談会の企画運営する社（3社）が開催する令和6年度進路説明会に参加 29校（普通11校 農業系16校 その他2校） ○ アグリキャンパスツアーの開催 令和6年度は5校378人に対して開催し、高校生等に魅力をPR ○ オープンキャンパスの開催 令和6年度は3回開催し、本校の魅力等をPR 生徒92人、保護者90人 計182人が参加 ○ 情報発信 ・学生募集パンフレットの作成・配布（県内108校、県外42校） ・HP・大手進学Webサイトを活用した発信 ・県公報等への記載 【課題】 ○ 本校の魅力を効果的にPRする等の情報発信強化 ○ 学校訪問による進路担当者との連携強化	意欲ある学生の確保 志願者数 80名以上	1 情報発信の強化 （1）年間更新計画に基づくホームページにおける情報発信 （2）コンビニと連携した情報発信 県内のファミリーマートでのポスター掲示 （3）学生目線からの情報発信 学生自治会と連携した情報発信の検討 （4）オープンキャンパスにおける情報発信 3回開催(6/14, 7/30, 3/15) 対象 高校生（県内、県外）、父母等 （5）アグリキャンパスツアーによる情報発信 本校の特色、学科、専攻、寮生活等の紹介 （6）指導農業士と連携した情報発信 指導農業士総会参加者、各支部（12支部）長等に対して、各地域の該当学生等に本校の情報発信を依頼。 2 学校訪問による進路担当者との連携強化 6月、8月の巡回による本校紹介と進路情報の共有	志願者 （令和8年度入校） 60名 1 情報発信の強化 (1) ホームページにおける情報発信 更新回数77回 (2) コンビニと連携した情報発信 約167件にポスターを提供 (3) 学生目線からの情報発信 学生自治会に情報発信内容等について検討を依頼 (4) オープンキャンパスにおける情報発信 参加生徒数83名、父母等89名 計 172名が参加 (5) アグリキャンパスツアーにおける情報発信 3校183人に発信 (6) 指導農業士と連携した情報発信 ・7～10月に各支部（12支部）長等を訪問し、各地域の該当学生等に本校の情報発信を依頼 ・一部支部ではイベントにおいて本校ブースを設置し、本校と連携し情報発信 (7) その他 ・進路相談会への参加 28校（普通6校、農業系16校、その他3校3会場） ・学生募集パンフレットの配布 県内113校 県外12校 2 学校訪問による進路担当者との連携強化 42校（農業系9校、普通31校：県立19校、私立11校、市立1校、その他2校）を訪問 【要因】 高校生に対し、HP、ポスター提供、オープンキャンパスの開催、指導農業士と連携し、本校の特色、実習の様子等の周知を図った。 父母等に対しHPを活用し本校のリアルな学びを発信した。 高校の進路指導担当者に対し、学校訪問等によりアドミッションポリシー等を周知し本校に関心のある学生への情報提供を依頼した。 以上の活動を実施したが志願者は十分に確保できなかったが、アドミッションポリシーに沿った入校生の確保は一定程度達成できた。	C	○SNSによる情報発信を強化して、高校生の目に触れる機会を増やすことが重要。情報発信方法として、プロへの依頼や、学生による発信が目に残まるのではないか。 ○SNSでは、全国からの学生確保を意識し、農大のPRとともに新潟に住んで就農することの魅力伝えることで、農大及び新潟県農業の活性化につながる。 ○受験検討者を対象としたオープンキャンパス、高校単位で開催しているアグリキャンパスツアーなどの体験型広報の場が重要。農大の実態や魅力をより深く知ってもらうことができるため、これらの場の充実に力を入れるべきである。 ○卒業生の活躍が広告塔となり、優秀な卒業生を育てることが農大の評価を高めることになる。農業実践力とともに人間性の教育に尽力され、農大のブランド形成や入校者の確保につなげてもらいたい。	<table><tr><th>評価</th><th>人数</th></tr><tr><td>1 適切</td><td>3</td></tr><tr><td>2 ほぼ適切</td><td>2</td></tr><tr><td>3 やや不適切</td><td></td></tr><tr><td>4 不適切</td><td></td></tr></table>	評価	人数	1 適切	3	2 ほぼ適切	2	3 やや不適切		4 不適切		【課題】 1 学校生活や教育活動に関する情報発信機会を拡充し、本校の認知度向上を図る。 2 高等学校との継続的な情報共有を通じて、進路指導担当者との連携をさらに強化する。 【改善策】 1 ホームページ、SNS等の各種媒体を活用し、本校の教育活動や学生の取組を積極的に発信する。 2 指導農業士や関係機関と連携し、高校生や保護者に本校の魅力発信を強化する。 3 アグリキャンパスツアー等の体験型広報活動を実施し、高校生への情報発信機会の拡充を図る。 4 高等学校訪問を継続実施し、本校概要説明、進路相談会参加者及び志願者情報の共有を通じて、高等学校との連携強化を図る。
評価	人数																		
1 適切	3																		
2 ほぼ適切	2																		
3 やや不適切																			
4 不適切																			

【達成度】 A（95%以上） B（80～94%） C（60～79%） D（40～59%） E（40%未満）

令和 8 年度 新潟県農業大学校評価表

重点目標	1 アドミッションポリシーを備えた入校者の確保 3 課題解決力、創造力の育成	2 仕事力、人間力の育成 4 進路指導の強化と就農率向上
------	---	---------------------------------

番号	重点目標	現状と課題	評価項目及び評価指標	具体的方策（令和7年度の取組）	実績（令和7年度の成果）と要因	達成度	外部評価委員会の 評価及びコメント	次年度の課題と改善策										
4	進路指導の強化 と就農率向上	【現状】 R2～R6の過去5年間平均 ・進路決定率 99.6% ・就農率 58.3% 自家就農 11.3% 法人就業 46.9% ・大学3年次編入 合格者率 79.3% 【これまでの取組】 1 目標（就農意欲）を持った入校生確保 ・本校及び農業の魅力の発信強化 ・入校試験情報等の発信 ・本校が求める入学希望者の資質（アドミッション ポリシー）の発信と入試判定への活用 2 進路指導・人材育成の充実強化 ・教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー） に基づいた人材育成 ・キャリアアップモデルフロー図による目標設定 ・大学編入対策の実施 3 農業法人等と学生のマッチングの促進 ・農業法人と学生のマッチングイベントへの積極的な 参加 ・先進経営等体験学習では希望対象法人等を考慮 ・求人情報を全体（担任・学生）で共有 ・求人農業法人の学生研修受入可否や求人ニーズの詳 細を学生へ情報提供 【課題】 1 就農後（に目指す姿）も含めた進路指導の強化 2 大学編入対策の充実	○農学部卒業時の進路 決定率 100%、就農率 60%以上 ○大学編入志望(2 学年 時)者の合格者率 100%	1 就農後（に目指す姿）も含め た進路指導の強化 （1）卒業生、若手経営者、ベテラ ン経営者等の実践者による経 営塾の実施（セルフマネジメ ントⅠ、Ⅱ） （2）農業人材として必要な資質・ 能力を考えさせ、就農後も継 続的成長を促す講義・演習、実 習の実施 （3）就農に向けた準備の参考と なる先進経営体等への校外研 修を実施 （4）マッチングイベントの参加 促進とハローワークとの連携 による就職相談会の実施 2 大学編入対策の充実 （1）大学編入対策として、 TOEIC 対策（英語）、小論文 対策、面接対策の実施 （2）編入大学（他県大学校研究 科含む）に関する情報提供 （3）編入希望者に対するガイダ ンスの実施	1 進路、就農状況 【実績】 《R7・2 学年の進路状況》 ・進路決定率 100%(53/53) ・就農率 57%(30/53) 自家就農 9%(5/53) 法人就農 47%(25/53) 【要因】 ・経営塾や校外研修、先進経営体 研修など通じ、様々な農業経営実 践者と触れる機会の中で、経営理 念や運営方法など学生自身が農業 を実践していく上での知識等が深 まり、希望に沿った進路決定に結 びついている。 ・農業法人・農業関係企業等で、大 学校卒業生が即戦力として期待で きる人材という認識が年々浸透し てきている。 2 大学編入対応 【実績】 ・大学編入合格者 100%（3/3） （新潟大学2名） （新潟食料農業大学1名） 【要因】 ・TOEIC スコアの向上に向けて、 英語教材による学習と英語講座で 能力の向上が図られた。 ・受験大学を踏まえた小論文の作 成指導や面接練習を複数回実施し た結果、能力向上につながった。 〔参考〕 1 年生大学編入希望者 6 名	A	○令和7年度の卒業生全員が就 職、進学とも農業関連に進んでい ることは喜ばしい結果である。 ○社会で成功している農業実践 者や卒業生の話を聞く機会を増 やすことで、農業に関わる進路を 選択する意向が高まり、農業大学 校としての教育効果が大きくな ると思われる。 動画の活用は機会増加に有効。 ○今後はより一層、農業高校と連 携した教育を行うことで、農業実 践者の確保に努めてもらいたい。 ○過半を占める非農家出身学生 の就農に向けた支援を今後も期 待する。 ○学生には、農業に従事すること の重要性、価値、喜び、楽しさを 教え、夢を持たせた就農に導いて ほしい。 ○希望者の意向に沿い、大学編入 指導にも力を入れるべきである が、志望者数が多くなった場合に は、目標項目を工夫すべき。 <table><tr><th>評 価</th><th>人数</th></tr><tr><td>1 適切</td><td>4</td></tr><tr><td>2 ほぼ適切</td><td>1</td></tr><tr><td>3 やや不適切</td><td></td></tr><tr><td>4 不適切</td><td></td></tr></table>	評 価	人数	1 適切	4	2 ほぼ適切	1	3 やや不適切		4 不適切		【課題】 ○進路決定については現在の プロセスで問題はないが、就 農希望の学生には、より希望 が叶うよう、普及センターと 連携し、具体的に法人等を紹 介できる体制が必要。 ○大学編入試験では英語の得 点が重要視されており、現在 採用している web 学習との 比較で、より効果的な学習方 法がないか調査が必要。 ○大学進学希望者が増加傾向 にあり、新潟大学編入以外の 希望も視野に入れた対応が必要 【改善策】 ○普及センターの担当者と法 人就業につながる連携強化を 図る。 ○活躍している農業実践者の 話を聞く機会を増加すること で、就農意欲の醸成、就農率 の向上を図る。 ○効果的な英語の勉強方法に ついて、より効果的なものが あれば変更する。 ○他の国立大学や新潟食料農 業大学との併願を勧め、入試 情報の共有、試験対策を実施 する。
評 価	人数																	
1 適切	4																	
2 ほぼ適切	1																	
3 やや不適切																		
4 不適切																		

【達成度】 A（95%以上） B（80～94%） C（60～79%） D（40～59%） E（40%未満）